

ステロイド中止後に通院し皮膚状態が落ち着いていった成人アトピーの経過 (20 代成人)

症例 ID：001-20-FY2 | 記録日：2016 年 2 月 1 日

1. 診断・治療前経過

高校生頃に肘と膝の内側の痒みで皮膚科を受診し、ヒルドイドと、痒みが強い時に使うステロイドが処方されました。初めはヒルドイドで落ち着いていましたが、痒みが強くなりステロイドを使用するようになりました。

ステロイドを塗ると痒みは引きましたが、中断するとまた痒くなり、塗ることを繰り返すうちに手放せない状態になりました。その後、自己判断でステロイドを中止すると、肘・膝以外にも痒みが出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ヒルドイドと併用する形で、痒みが強い時にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	高校生頃から断続的に使用しました。
中止時期	松本医院受診前に自己判断で中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校生頃	来院前	肘と膝の内側に痒みが出て、ステロイド外用を始めました。
ステロイド中止後	来院前	肘・膝以外にも痒みが出るようになりました。
通院開始後	初期	ステロイドを使用していなかった部位にも湿疹が広がり、赤みや膿が出る時期がありました。
通院開始から 2 年弱	経過後半	肌が少しずつつるつるになり、リバウンド症状が出ても当初より程度は軽く、頻度も落ち着いてきました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、通院開始後に湿疹が広がり、赤みや膿がみられた時期です。

5. 困りごと

- ステロイドを中断すると痒みが戻るため、外用薬が手放せない状態になっていました。
- 通院開始後には、これまで出ていなかった部位にも湿疹が広がり、しんどい時期がありました。

6. 経過のまとめ

通院開始後には湿疹の広がりや赤み、膿が出る時期がありましたが、2年弱の経過の中で肌は少しずつつるつるになり、リバウンド症状の程度と頻度も落ち着いてきました。症状には波がありましたが、通院経過の中で、皮膚症状や生活上の支障が軽減していく変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。